

○県大会出場に関すること

1. 男子団体、男子個人はオープン参加とする。ただし、地区予選会に出場すること。
2. 女子団体、個人は地区予選会の結果により出場する。

○代表者会議に関すること

1. 代表者会議に申込書を提出しない場合は棄権とする。なお、予選会記録の未提出者(予選会が開けない地区は、専門委員長に必ず連絡を)、会議への著しい遅刻も同様となる場合がある。
2. 申込用紙に申請した生徒は参加料としてひとり300円が必要となる。代表者会議に出席する教員が集金をし、まとめて持参する。
3. 外部指導者およびテクニカルアドバイザーの申請もこの会議とする。なお、大会当日の指導者名が決定していない場合は、当日担当可能な指導者名を全て申請することとする。
4. 学校総合体育大会の競技抽選は、男子団体の場合、新人体育大会兼県民総合体育大会の上位団体6位までのチームをシードとする。また、個人の場合は、1位～4位、5位～8位を班とし、シードとする。女子は団体8位まで、個人1位から8位までをシードとする。なお、団体シード権はその地区に与える。班編制は女子団体5～8位を1日目最終班、1～4位を2日目最終班とする。個人の1～4位は5班17組、5～8位を18組とする。
学校総合体育大会のノーシードの団体・個人、新人体育大会兼県民総合体育大会の抽選は、事前に専門部で地区ごとの組み合わせを作り、そのグループによる抽選となる。(組み合わせについては専門部に一任)

男子シード

班	組	競技1日目(規定)
昼休み		
4班	13	4位チーム
	14	5位チーム
	15	6位チーム
	16	個人5位～8位
5班	17	1位チーム
	18	2位チーム
	19	3位チーム
	20	個人1位～4位

女子シード

班	組	競技1日目	班	組	競技2日目
2班	5		5班	17	個人1位～4位
	6			18	個人5位～8位
	7			19	
	8			20	
昼休み			昼休み		
3班	9	5位チーム	6班	21	1位チーム
	10	6位チーム		22	2位チーム
	11	7位チーム		23	3位チーム
	12	8位チーム		24	4位チーム

※上記班編制は男子5班20組、女子6班24組の場合を基準とする。男女とも組数、班数が減った場合、男子は上位チーム、個人を最終班、残りのチーム個人を最終班の前の班に配置する。女子は1位～4位チームを競技2日目最終班、5位～8位チームを1日目最終班に編制し、個人シード選手は2日目最終班の前の班に配置する。

※シード個人が4名以下の場合には1班にまとめ男子は競技1日目5班20組、女子は競技2日目5班17組に入れる。また、出場チーム数、選手数によってはシードチームのあとに割り振ることもある。5人以上の場合は本部で割り振る。

5. 個人出場で、大会当日保護者引率になる場合、この会議内容は必ず保護者・生徒に伝達することとする。

○競技に関すること

1. ユニフォームには学校名か学校マーク、およびゼッケンをつけること。

※ゼッケンは学校で用意する。ゼッケンは縦15cm、横20cmの白布とする。番号は男子は黒、女子は赤で明記する。

2. 選手は種目ごとの演技前に主任審判員にオーダー用紙を提出すること。記入の仕方はゼッケン順にフルネームを記入し、演技順を数字で記入する。
3. 学校総合体育大会の個人選手の演技順は、団体の後についている選手はプログラム順に実施する。個人のみを編成した場合は、1種目はプログラム順に演技し、それ以降は種目ごとに繰り上がる。

4. 女子のゆか運動の伴奏は、各校で操作する。
5. 男子のゆかの演技時間は(規定演技) 75秒まで減点なし、76秒～80秒まで0.10、80秒を超える場合0.20の減点とする。(2013年版・中学校適用規則)
6. 学校総合体育大会の男子予選通過(規定)は、個人は4種目合計で20位まで、団体は3種目の合計で8位までとする。なお、同点の場合は※全国大会、関東大会遵守事項に準じて順位を決定する。(下記※)
男女とも学校総合体育大会の表彰は個人は4種目、団体は3種目で決定する。
7. 関東大会出場権は、団体は3種目の合計で団体総合上位2校、個人は4種目の合計で(団体出場選手をのぞいた)上位4名に与えられる。
同点の場合は※全国大会、関東大会遵守事項に準じて順位を決定する。(下記※)

※順位決定について

- ・全種目得点の中から最低点を除き、残りの種目の合計得点の高い方を上位とする。
- ・同じ得点が続く場合には、同様の方法で残りの種目の合計点を比較し、高い方を上位とする。
- ・全種目とも得点と同じ場合には、抽選にて決定する。
- ・団体については、チーム得点を同様の方法で比較し、上位を決定する。

8. 男子規定演技は「男子体操競技ジュニア規定演技」2004年～・レベルIによって採点する。自由演技は、男子は採点規則2017年版及び2013年度版中学校適用規則、競技女子は採点規則2017年版「変更規則I」で採点する。なお跳馬の男子規定演技は2助走2演技とする。男子自由演技は1助走1演技とする。女子は2演技とする。
9. 試合中アリーナに立ち入ることのできるの、チームについては、監督(教員)1名、責任補助員2名(外部指導者およびT・Aで1名兼ねられる)の計3名まで、個人については、1名の選手につき、監督、責任補助員、外部指導者、T・Aのうち、いずれか1名とする。
10. 競技中のアリーナでの水分補給は、選手席のみとする。
11. 監督は原則として大会運営、採点(得点)に関する抗議はできない。ただし、女子Dスコアについての質問は、演技を行った班の競技終了後10分後まで、審判長が書面で受け付ける。
12. その他においては上記採点規則集に準じて判断し、不都合が生じた場合は、その都度常任委員会で提案協議し、承認を得て改定していくこととする。
13. 選手変更をする場合、男子は演技初日、女子は演技当日の受付で変更届を提出する。
14. 大会初日及び演技当日の受付は決められた時間までに行うこと。
15. 男女とも、出場する学校の引率教諭に対しては、本部より運営に関わる仕事を割り振る。

○会場に関すること

1. ビデオ等の使用は専門委員長の許可(当日本部席で申出によりバッチを貸与する)を受けたものだけとする。撮影は指定された場所のみとする。体育館の電源は使用しない。なお、撮影した動画・写真については、個人で責任を持って管理し、他に流出させないこと。
写真撮影においては、ストロボ、フラッシュ等は使用しない。また、携帯電話・スマートフォン・タブレットでの撮影は認めない。
2. 撮影した動画・写真を、写っている選手等の許可を得ないでインターネットなどに配信することを禁止する。
3. ロビーの使用、更衣室、観覧席の使い方、自動販売機、ゴミの後始末、下足の扱い等マナーをしっかりと守ること。また、盗難、不純な目的のカメラ、ビデオ撮影については強い姿勢でこれを排除する。

4. 会場警備係として、当日保護者引率している方にも時間交代で実施して頂く。
(保護者引率とは、保護者引率規定に準じて学校長が認めた者とする。)

○施設、器具に関すること

1. 一度セッティングされた器具に問題がある場合は競技部長に連絡をとる。
2. 鉄棒は、床面から275cmとする。
3. あん馬においては、背の低い選手に対して補助台の使用を認める。
4. 跳馬、鉄棒、平均台、段違い平行棒の着地において、本部指定の着地マットであれば使用を認める。
5. スプリング式踏み切り板の使用については、中学生の年代を考慮して、スプリングの配置を3-3-2、3-1-2、2-1-2からの選択とする。

○外部指導者およびテクニカルアドバイザー（以下T・A）に関すること

1. 外部指導者・T・Aとは
 - ・外部指導者とは当該校長が人格・指導面において優れていると認めた成人であり、学校の教育方針に基づき、顧問教師の指導計画に従い、日頃から継続して運動部活動にあたる者である。（埼玉県中学校体育連盟規定）
 - ・T・Aとは中学校の教職員で、当該校以外の他の中学校の補助・指導を行う指導者である。（全国中学校体操競技選手権大会遵守事項）
2. 外部指導者、T・Aは、埼玉県中学校体育連盟に規定されたもので、中学校長が承認したものである。
3. 外部指導者およびT・Aについては代表者会議で申請された者に限り、本部より指導者証を発行する。なお、大会当日は必ず本人が受付をおこない、一日単位で指導者証を返却すること。
4. 指導者証を持たないコーチについては、競技中にアリーナに入ることはできない。（練習中は別とする。）
5. 外部指導者およびT・Aは、次の事項を厳守すること。
 - (1) 運営・採点へ抗議はしない。
 - (2) 当該校の指導が終わり次第速やかにフロアーからでる。
 - (3) 監督会議には、監督とともに必ず出席する。
 - (4) セッティング・カッティングには協力する。
 - (5) 指導者証は、常に携帯し、提示できるようにしておく。
 - (6) 指導者証は、本人以外は使用を認めない。
6. 上記、専門部の指示に従わない外部指導者、T・Aは指導者証を回収し退場となる。次大会以降の指導者登録は専門部で検討する。

○県外競技会の指定宿泊に関すること

1. 関東大会および全国大会に出場する際の宿泊施設は、主催者側の準備した宿泊施設を利用すること。

2013年度版中学校男子適用規則

平成25年2月22日
日本中学校体育連盟体操競技部
日本体操協会審判委員会
体操競技男子審判部

2013年度版中学校男子適用規則作成のねらい

中学校男子適用規則は、1981年に独自の難度表を含めた規則書が発行された。1985年のF I G採点規則の改定に伴い、中学校男子適用規則も必要な改訂を加えるとともにそのねらいとするジュニア層の育成と底辺拡充に即した規則の検討を行い中学校男子適用規則1986年度版として作成された。以後、1990年度版、1994年度版、1997年度版、2001年度版、2006年度版、2009年度版が作成され、この度、F I G採点規則2013年版が発刊されるにあたり、中学校男子適用規則としても新たに2013年度版を作成した。

F I G採点規則2013年版は、2009年版を受け継ぎ、基本的な技のいくつかはA難度未満の技として、難度表から削除され、中学生やジュニア層の採点に適しているとはいえない。これらについては中学校適用規則の中で幾つか例に挙げたがそれらがすべてではなく競技会の中で審判員が独自に判断し選手やコーチの努力に報いるように評価していただきたい。

F I G採点規則2013年版は、2009年版と同様にD・E審判の分業制をはっきりとさせたものとなっている。このことによりD審判の作業量が拡大し、実際の競技会においてD・E審判を1人の審判員が同時に行うことは競技会の時間等を考えると不可能になり、このままの規則では最低6名の審判員の確保が必要となる。このようなことも考慮し、2013年度版中学校男子適用規則では、10点満点で採点することとし、D・E審判に分業しないで採点することにした。

今回の2013年度版中学校男子適用規則は2009年度版より要求する技の数を10技から8技と少なくした点、技の繰り返しを認めないとした点、禁止技であった後方2回宙返りに1回ひねりが加わる技の禁止緩和を行った。

部分的に一般の採点規則に対応させ変更した箇所はあるものの、2009年度版までで受け継がれてきた「姿勢的美しさに対する評価」を優先し、体操競技の原点は美を競うという考え方を第一優先とすることに変わりはない。

中学生の評価に際し、中学校特有の規則以外は全て一般の採点規則を適用する。従って2013年度版中学校男子採点規則は、採点規則2013年版と「中学校男子適用規則」とを合わせたものとする。

審判員各位は、中学校適用規則はもとより、一般の採点規則の条項についても熟読し、精通され中学生の体操競技の正しい育成と発展にご尽力いただきたい。

また、この規則に適合しない競技会では、独自の規則を設け、中学生の体操競技の育成にあたっていただく事をお願いしたい。

2013年度版中学校男子適用規則は、平成25年4月1日より適用する。

2013年版・中学適用規則

第1章 規定演技の採点

第1条 原則

- 1, 規定演技の採点要素
 - a) 解説書による演技の解釈
 - b) 演技実施（技術と姿勢から）
 - c) 演技の熟練性に対する加点

第2条 規定演技の内容および構造

- 1, 規定演技は、部分および区分に分かれており、それらは、難しさや価値に応じた配点がなされ、解説文の減点表に記載されている。
 - a) 規定演技の姿勢的、技術的観点からの採点は、採点の一般的規則およびそれぞれの種目で定められた規則が適用される。
 - b) 実施しなかった部分または組み合わせについては、該当する部分のあるいはその区分のすべての配点を減点する。
 - c) 余分に行われた部分については、中間振動と同様に扱われ、0.30の減点がなされる。
 - d) 指示されていない方向への実施は、演技全体から大欠点相当である0.30の減点がなされる。
 - e) 落下による演技の中断は、30秒以内に続行することができる。演技を順序正しく続行させるために、中断した部分を繰り返すことはできるが、その部分の採点を行わない。

2, 規定演技の最高配点は全種目9.60である。10.00までの0.40は、熟練性の加点とする。熟練性に対する加点は、以下の要素を兼ね備えた場合考慮されるべきである。

- ・ 姿勢的な美しさ
- ・ 最大限の振幅を利用した振動技
- ・ 卓越した雄大さ
- ・ 演技全体を通してのリズミカルな動き
- ・ 安定した着地

3, ゆかにおいて制限時間を設ける。

- ・ 75秒まで・・・減点なし
- ・ 75秒を超え80秒まで ・0.10減点
- ・ 80秒を超える・・・0.20減点

第2章 自由演技の採点

次に示すもの以外は、採点規則2013年版（日本体操協会）を適用する。ただし、減点はライン減点、タイム減点なども含めてすべて中体連適用規則に準ずる（小欠点0.10中欠点0.20 大欠点0.30落下0.50）

第3条 得点の構成および難度要求

a) ゆか、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の自由演技は次の配点により構成される。

難 度	2.40 (0.30×8技)
特別要求	1.50 (0.30×5要求)
加 点	0.60 (演技構成0.30+熟練性0.30)
実 施	5.50

合 計 10.00

b) 跳馬以外の5種目において次の技数を要求する。

8技（1技につき0.30×8=2.40）

技不足に対する減点は、1技につき0.30である。ただし、採点規則2013年版で難度表から削除された技についても体操競技の健全な発展と評価を考慮し1技として数える。例えば、ゆかの側方倒立回転、ロンダートや鉄棒の足裏支持回転倒立、後方宙返り下りなどである。

あん馬においては、同じ横向き旋回でも両ポメル上と馬端部、逆の馬端部等で別技とする。また足交差においても左右で別技とする。

第4条 実施減点

正しい演技からの逸脱は、すべて実施欠点であり、審判によって相応の減点がなされる。小、中、大欠点の大きさは、正しい演技からの逸脱の程度により判定される。小、中、大欠点等の減点は以下の通りである。

小欠点	0.10
中欠点	0.20
大欠点	0.30
落 下	0.50

第5条 特別要求

実施された演技は、難度の他に次の要素を考慮しなければならない。

- 1, 跳馬を除くすべての種目に5種類を要求し1つ欠けるとに0.30の減点となる。
- 2, 採点規則2013年版の要求グループの枠を越えて各要素を認めることができる。ただし、1技で2つの要求を満たすことはできない。

a) ゆ か

- ① 前方系の跳躍技
- ② 後方系の跳躍技
- ③ 片脚上でのバランス技（2秒静止）
- ④ 倒立静止技（2秒静止）
- ⑤ 柔軟性を表現する技

b) あん馬

- ① 正交差
- ② 逆交差
- ③ 両把手上での旋回技
- ④ 縦向き旋回
- ⑤ 終末技

c) つり輪・d) 平行棒は省略

e) 鉄 棒

- ① 前方車輪
- ② 後方車輪
- ③ 懸垂振動ひねり技

- ④ 支持回転技
- ⑤ 終末技

第6条 加点

- 1, 0.60まで与えることができる。
- 2, 跳馬を除く5種目において優れた演技構成に対して最大0.30まで与える。
- 3, 全ての種目において熟練性として最大0.30まで与える。熟練性に対する加点は、以下の要素を兼ね備えた場合考慮されるべきである。

- ・姿勢的な美しさ
- ・最大限の振幅を利用した振動技
- ・卓越した雄大さ
- ・演技全体を通してのリズミカルな動き
- ・安定した着地

第7条 跳馬

- 1, 跳馬においては、以下の表のようにそれぞれの跳越に独自の基礎点が定められる。

- a) 前転とび(ヤマシタとび)群
 - ・前転とび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9.00
 - ・前転とびひねり・・・・・・・・・・・・・・・・9.10
 - ・前転とび1回ひねり・・・・・・・・・・・・9.30
 - ・前転とび1回半ひねり・・・・・・・・・・・・9.50
 - ・前転とび2回ひねり・・・・・・・・・・・・9.70
- b) ツカハラとび群
 - ・かかえ込みツカハラとび・・・・・・・・・・・・9.30
 - ・屈身ツカハラとび・・・・・・・・・・・・9.50
 - ・かかえ込みツカハラとび1回ひねり・・・・・・・・9.50
 - ・伸身ツカハラとび・・・・・・・・・・・・9.70
 - ※1/2ひねりはひねらないものと同価値
 - ・伸身カサマツとび・・・・・・・・・・・・9.70
- c) 前転とび前方宙返り群
 - ・前転とび前方かかえ込み宙返り・・・・・・・・9.50
 - ※1/2ひねりはひねらないものと同価値
 - ・前転とび前方屈身宙返り・・・・・・・・・・・・9.70
 - ※1/2ひねりはひねらないものと同価値
 - ・伸身クエルボとび・・・・・・・・・・・・9.70
- d) ロンダート踏み切り群(ユルチェンコとび群)
 - ・ロンダート、後転とび後方かかえ込み宙返り・・・・9.30
 - ・ロンダート、後転とび後方屈身宙返り・・・・・・・・9.50
 - ・ロンダート、後転とび後方伸身宙返り・・・・・・・・9.70
 - ※1/2ひねりはひねらないものと同価値
 - ・ロンダート、後転とび後方伸身宙返り1回ひねり・・9.70
- e) その他の跳躍技群
 - ・開脚とび(閉脚とび)・・・・・・・・・・・・8.00
 - ・開脚とびひねり(閉脚とびひねり)・・・・・・・・8.40

- 2, 上記にない跳越技は2013年版採点規則の価値点から以下のように判定される。

2013年版		中学適用
4.40以上	→	9.70
4.00~4.30	→	9.60
3.20~3.90	→	9.50
2.80~3.10	→	9.30
2.40~2.70	→	9.10
2.00以下	→	9.00

- 3, いかなる跳越にも最大0.30までの熟練性を加味した加点を設ける。
 - a) 熟練性に対する加点は、優れた跳越、高さに対して0.20まで、安定した着地に0.10とする。
 - b) 距離や馬体軸からの外れに対する線は引かない。しかし、飛距離、馬体軸からのずれに対する減点はある。これらは、競技会のレベルを考慮し審判員が判断する。

第3章 補足

第8条 演技全体に対する評価について

- 1, 美しさに欠ける演技に対する減点
足首、指先、体線などの美しさに欠ける演技に対して演技全体として0.30まで減点する。
- 2, 雄大さに欠ける演技に対する減点
宙返りの高さ、旋回の高さ、振動の高さなど雄大性にかかるこぢんまりとした演技に対して全体として0.30まで減点をする。

第9条 補助について

事故防止と選手の精神的援助のためつり輪、跳馬、平行棒、鉄棒において2名までの補助者が立つことが許される。

第10条 採点について

- 1, 規定演技、自由演技ともに9.50以上の場合には0.05採点が認められる。
- 2, 規定演技と自由演技が行われる競技会で、自由演技で規定演技を実施してもこれに関する減点はない。
- 3, 難度の認定と繰り返し
 - a) 技の繰り返しは、技を認定しない。また、同一技が2回連続して行われた場合は2回目から難度部分として認めない。しかしながら実施減点はあり得る。

第11条 禁止技について

以下の禁止技を実施した場合は、その種目を0点とする。

- ・ゆ か：前方宙返り転（後ろ跳びひねりからも含む）
前方2回宙返り（後ろ跳びひねりからも含む）
後方2回宙返りに1回半以上のひねりが加わった技
- ・跳馬：2013年版採点規則「跳越グループIV」「跳越グループV」のロンダートから着手までにひねりが入る技
ツカハラとび、ユルチェンコとびに1回半以上のひねりが加わった技
前転とび前方宙返りに1回以上のひねりが加わった技
前方、後方ともに3回宙返りの技（ローチェなど）
- ・鉄棒：前方2回宙返り下り
後方2回宙返り下りに1回半以上のひねりが加わった技
後方3回宙返り下り
- ・その他、難度表に●が記載されている技

男子体操競技ジュニア規定演技2005年～

○種目ごとのねらい

ゆ か

1. 柔軟性を必要とする技として、前方倒立回転（前方ブリッジ）、前後及び左右開脚座、伸膝前転開脚前拳支持経過正面支持臥、Y字平均立ちを採用した。柔軟性の表現はもちろんのことリズムやコレオグラフィ的に価値のある動きを目指してほしい。
2. 前転とびのコンビネーションは、将来の前方系の跳躍技へと発展できるように組み入れたので、ジャンプでは停滞せずにリズムカルに捌いてほしい。
3. 倒立ひねり系の技を組み入れた。これらは将来、鉄棒や平行棒に応用できるように採用した。倒立位での体重移動やひねった後の安定した倒立を示せるように捌いてほしい。後転倒立ひねりは、屈膝、伸膝のどちらで実施しても良いが、ひねりの開始は上昇中に始まるような捌きを目指してほしい。
4. 後方系のタンブリングは、テンポを組み入れた。後転とび～後方かかえ込み宙返りへの連続は、スピード（加速技術の習得）と高さを目指してほしい。

あん馬

1. 両足旋回は3種類（3カ所）の旋回を組み入れた。
 - ・あん部横向き旋回
 - ・馬端部横向き旋回
 - ・馬端部中向き旋回（縦向き）
2. 上記の3種類の旋回は、腰高で雄大な旋回はもとより入れ、抜き、正面支持、背面支持等（前後、左右）をバランスよく実施することが望ましい。
3. 片足振動技として、正交差だけでなく逆足の抜きと入れを組み入れた。より正確な振動技術の手捌きや足捌きを習得してほしい。

跳 馬

1. 前転とびは、回転技の基本であり、突き手のきいた浮きのある跳越を実施してほしい。
2. 第2局面では、肩を前に出すなどしていたずらに距離を稼ぐことなく、雄大な空中への浮き上がりを表現してほしい。
3. 今回の改訂から規定演技について2跳越の平均とすることとした。これは、将来的に2回超越することへの導入及び意識付けである。

鉄 棒

1. 減点表に記載されていないすべての振動技及び振動ひねり技は倒立位を前提に減点なしとする。
2. 区分Ⅲ・Ⅳの懸垂前ひねり順手持ち換えは、十分なあふりを利用し軸手での支持を示した正しい姿勢のひねりで大きさを求めてほしい。
3. 区分Ⅳの浮腰回転振り出しひねりは、倒立位から捌いても、早い巻込みから捌いても良い。十分に身体をたたみ、柔軟性のある捌きをしてほしい。
4. 前方および後方車輪は、十分に肩の力が抜けた実施を目指してほしい。
5. 区分Ⅸの後方かかえ込み宙返り下りは、正しいあふり技術を身に付け、安全面に十分配慮して実施してほしい。身体へのばしを強調するあまり不十分なかかえ込み姿勢やあふり動作のみられない宙返り下りは、好ましくない。

※中学生、つり輪・平行棒は除かれる。

ゆ か 減点表

区分及び減点内容	小欠点	中欠点	大欠点
区分Ⅰ 【配点 0.80】 ・前方倒立回転両足立ちで柔軟性に欠ける。 ・ツーステップ、リープジャンプのリズム不良。	*	*	*
区分Ⅱ 【配点 2.40】 ・前転とびの突き手がない。 ・前転とびのスピードがない。	*	*	*
区分Ⅲ 【配点 1.00】 ・倒立ひねりがない。 ・倒立ひねり、後転倒立ひねりで余分に手をつく。 ・伸膝前転開脚前拳支持経過後ろ抜きで柔軟性やリズムに欠ける。	*	*	*
区分Ⅳ 【配点 1.00】 ・前後開脚座、左右開脚座の柔軟性に欠ける。 ・開脚座でひねる際のリズム不良。	*	*	*
区分Ⅴ 【配点 1.00】 ・伸腕屈身開脚倒立の静止がない。			-0.50 1秒未満
区分Ⅵ 【配点 1.00】 ・Y字平均立ちの柔軟性に欠ける。	*	*	*
区分Ⅶ 【配点 2.40】 ・後方伸身宙返りを行わない。 ・後方かかえ込み宙返りを行わない。 ・後方かかえ込み宙返りのかかえ込みが不明確。 ・着地前に身体の伸ばしがない。 ・連続した跳躍技のスピードがない。	*	*	-0.60 -1.00 * * *
【配点合計 9.60】 ・演技時間が75秒を超え80秒まで……-0.10、80秒を超える……-0.20 ・演技全体を通してリズムや調和、柔軟性に欠ける。……-0.10~-0.30 ・スピードと高さ、浮きを表現した跳躍技。……+0.10~+0.20 ・卓越した柔軟性を表現した前方倒立回転や開脚座。……+0.10 ・美しい姿勢を示した倒立。……+0.10 ・終末技で安定した着地。……+0.10			

あん馬 減点表

区分及び減点内容	小欠点	中欠点	大欠点
区分Ⅰ 【配点 0.60】 ・片足振動の大きさが小さい。(各々)	*	*	*
区分Ⅱ 【配点 2.00】 ・正交差の大きさが小さい。(各々) ・正交差で柔軟性に欠ける。(各々) ・正交差を行わない。(各々)	*	*	*
			-1.00

区分Ⅲ 【配点 2.40】 ・両足旋回の不足。(1回につき) ・両足旋回が多い。			-0.80 -0.50
区分Ⅳ 【配点 1.00】 ・余分に手をつく。 ・正面横移動が不成立で落下する。			* -0.80
区分Ⅴ 【配点 1.60】 ・馬端部横向き旋回の過不足。(1回につき) ・馬端横向き旋回の横向きが不明確。 ・馬端横向き旋回のリズム不良。	*	*	-0.40 *
区分Ⅵ 【配点 1.00】 ・馬端中向き旋回の過不足。(1回につき) ・馬端中向き旋回の向きが不明確。	*	*	-0.50 *
区分Ⅶ 【配点 1.00】 ・下向き下りの下向きが不明確。 ・下向き下りが水平以下。 ・馬端部に着地しない。	*	*	* * *

【配点合計 9.60】 ・演技全体を通して両足旋回の高さに欠ける。……………-0.10~-0.30 ・正交差または、片足振動の卓越した大きさ。……………+0.10~+0.20 ・雄大な両足旋回に対して。……………+0.10~+0.20 ・演技全体を通して美しい姿勢。……………+0.10~+0.20

跳 馬 減点表

区分及び減点内容	小欠点	中欠点	大欠点
区分Ⅰ 【配点 3.00】 ・助走のスピード感に欠ける。 ・着手で腕がまがる。 ・着手で腰がまがる。 ・着手時間が長い。	*	*	* * *
区分Ⅱ 【配点 6.60】 ・高さが低い。 ・突き手の姿勢不良。 ・空中での姿勢不良。 ・着地の準備姿勢がない。	*	*	* * *
【配点合計 9.60】 ・演技全体を通して美しさや雄大さに欠ける。……………-0.10~-0.30 ・卓越した雄大さを示した跳越。……………+0.10~+0.20 ・美しい空中姿勢。……………+0.10~+0.20 ・安定した着地を示す、または止まる。……………+0.10			

鉄 棒 減点表

区分及び減点内容	小欠点	中欠点	大欠点
区分Ⅰ 【配点 0.80】 ・後ろ振り上がりが低い。 ・後ろ振り上がりで腰が曲がりすぎる。	*	*	45°未満 *
区分Ⅱ 【配点 1.00】 ・後方浮き支持回転が水平以下。			-0.50
区分Ⅲ 【配点 1.00】 ・懸垂前振りで鉛直面から外れる。	*	*	
区分Ⅳ 【配点 1.00】 ・懸垂前振りで鉛直面から外れる。	*	*	
区分Ⅴ 【配点 1.20】 ・後方車輪の技術不良。	*	*	*
区分Ⅵ 【配点 1.20】 ・後方開脚屈伸回転ひねり片逆手握りの大きさが低い ・足がバーに触れる。 ・後方開脚屈伸回転で柔軟性に欠ける。 ・足裏支持回転で実施する。	*60°以下	*45°以下 * *	*水平未満 * * -1.00

区分Ⅶ 【配点 0.80】 ・片逆手懸垂前振りで腕がまがる。	*	*	
区分Ⅷ 【配点 1.40】 ・前方車輪で腰が曲がりすぎる。 ・前方車輪の倒立位で停滞する。 ・後ろ振り上がり順手持ち換えで腰がまがりすぎる。	*	*	
区分Ⅸ 【配点 1.20】 ・宙返りの高さがない。 ・かかえ込み姿勢が不十分。 ・着地前に身体の伸ばしがない。	*	バーの高さ	バー未満
【配点合計 9.60】 ・演技全体を通して美しさや雄大さに欠ける。……………-0.10~-0.30 ・演技全体を通して倒立位になる振幅の大きさ。……………+0.10~+0.20 ・前・後方車輪においてスピード感のある実施。……………+0.10~+0.20 ・演技全体を通して美しい姿勢。……………+0.10~+0.20 ・終末技で安定した着地。……………+0.10	*	*	*